

研究会報告書

研究会名（日本語）： 無と全体の輪廻
研究会名（英語）： Kyoto Transdisciplinary & Transnational Forum 2018
“Circle of Emptiness and Wholeness”
開催日時： 2018年 6月 3日(日)
開催場所 基礎物理学研究所

[Abstract]

Despite the advancement of science and technology, we are facing with so many difficulties such as education, energies, economies and even humanities. By focusing on “external” agents, we have tried to solve serious problems, although such intensive efforts have not been successful very well. The reason for this is that the central issue of our time across all system levels emerges from our “internal” conditions as well, but not only from “external” agents. It is now time to deal with both oppositions at the same location on the Earth and at the same time of the History.

The present Kyoto Transdisciplinary & Transnational Forum 2018 on “Circle of Nothingness and Wholeness” would provide us with deep insights into the Advanced Future Studies, for it could deal with both “external” agents and “internal” conditions simultaneously on the basic transcendental frameworks. It is our hope to develop new perspectives and new actions toward our future through stimulating discussions beyond different disciplines.

There were 161 people in this Kyoto Forum 2018 including public citizens. We had a lot of intensive and stimulating discussions beyond the boundaries of individual disciplines.

[世話人]

<u>氏名 (Name)</u>	<u>所属 (Affiliation)</u>	<u>備考</u>
村瀬 雅俊	京都大学・基礎研	
柴田 一成	京都大学・花山天文台	
吉村 一良	京都大学、理学研究科	
富田 直秀	京都大学・工学研究科	
山口 栄一	京都大学・総合生存学館	
西平 直	京都大学・教育学研科	
八木 匡	同志社大学・経済学研究科	
阿部 健一	総合地球環境学研究所	

[研究会の目的・趣旨]

グローバル化時代を迎え、世界は1つの巨大システムと化した。ところが、従来型の物質資源中心・貨幣価値経済中心の考え方に、人類が固執してきた結果、人口問題・食糧問題・資源問題といった既成問題を解決するどころか、逆に新たな問題を次々と生み出すに至った。実際、世界中がテロや貧困、創造性の欠落、希少資源の枯渇、イデオロギーや歴史認識の違いによる国内外の人種対立などに翻弄され続けている。こうした混沌とした時代にこそ、世界に感動を与え、欧米から尊敬されながらも、多くの現代日本人から忘れられてきた「日本的靈性」を、世界に誇れる社会・文化価値として再構築することが必要かつ急務である。

本フォーラムでは、多くの現代日本人から忘れられてきた「日本的靈性」に基づく「叡智」を再発見し、「自然」との共創を目指した対話を理論と実践の両面から試みることによって、日本的靈性や自然観を学術的かつ実践的に探究し、それらを踏まえ未来に向けた新たな社会・文化価値の創出を目指す。

具体的には、次のプログラムに従って異分野交流を実施した。

第1部：無と宇宙（日本語）

司会：八木 匡（同志社大学 経済学研究科）

◆挨拶：青木慎也（京都大学 基礎物理学研究所 所長）

◆パネル討論：

柴田一成（京都大学 宇宙物理学）

青木慎也（京都大学 素粒子物理学）

西平 直（京都大学 教育人間学）

村瀬雅俊（京都大学 未来創成学）

◆DVD「古事記と宇宙」 上映

喜多郎（音楽家）、柴田一成（京都大学）

宇宙物理学・素粒子物理学・人間学・未来創成学に関する講演とパネル討論を実施

第2部：虚と実（日本語）

司会：村瀬雅俊（京都大学 基礎物理学研究所）

◆座談会「未知への挑戦－人類進化の視点から」

山極壽一（京都大学 総長）

黒川 清（政策研究大学院大学・東京大学 名誉教授）

◆DVD「虚と実」 上映

ツトム・ヤマシタ（音楽家）

◆パネル討論：

八木 匡（同志社大学 経済学）

吉村一良（京都大学 化学）

阿部健一（総合地球環境学研究所 環境人類学）

山極壽一総長と黒川清名誉教授による座談会を皮切りに、生命・人間・進化・虚と実について、総合的な討論を実施。

第3部：自然と霊性（英語）

司会：八木 匡（同志社大学）

◆パネル討論

“Listening to the Humanity behind Economic Life”

Stephen Hill (University of Wollongong, Australia)

“Transnational and Human Relationship”

Hiroataka Watanabe (Tokyo University of Foreign Studies)

“The Evolution of Life in Cities”

Marc T. J. Johnson (University of Toronto, Canada)

“The Challenge of Deep Transdisciplinarity”

Daniel Niles (Research Institute for Humanity and Nature)

◆ファシリテーター

Naohide Tomita (Kyoto University)

Takayuki Ohgushi (Kyoto University)

Eiichi Yamaguchi (Kyoto University)

Masatoshi Murase (Kyoto University)

ユニット招聘外国人教授を交えて、進化・精神・都市・超学際について、積極的な議論を展開した。また、ファシリテーターも加わり、異分野交流を推進した。

宇宙物理学・素粒子物理学・人間学・未来創成学の異分野交流を推進することによって、歴史観・人間観・未来学の展望を広い視野から統括する NECTE 理論が提唱された。その理論は、単に世界の有り様を理解するための道具であるばかりでなく、世界を認識する心理現象の理解の道具としても優れていることが示された。さらに、この NECTE 理論は、その使用方法を逆転することによって、過去の理解に限らず、未来の創成にも使える可能性が指摘された。

パネル討論では、真空と超伝導、経済学の構築と破綻について、心の本質・日本的霊性を含めた観点から議論された。その結果、論理だけでなく、感覚や感情の本質的重要性、それに伴う芸術の価値などについても、議論が及んだ。

[研究会の成果]

グローバル化時代を迎え、世界は1つの巨大システムと化した。このグローバル化と相まって、ローカルな方法論的限界が明確になってきた。実際、従来型の物質資源中心・貨幣価値経済中心の考え方に固執するあまりに、グローバルな問題である人口問題・食糧問題・資源問題といった既成問題を解決するにはいたっていない。それは、方法論自体に飛躍を取り入れるとともに、過去と未来を共存するような可能性を同時に追求することが求められ始めているからである。

そのために、従来型の課題解決策に固執するかぎり、問題解決が進展するどころか、逆に新たな問題を次々と生み出すに至っている状況が浮き彫りになってきた。実際、世界中がテロや貧困、創造性の欠落、希少資源の枯渇、イデオロギーや歴史認識の違いによる国内外の人種対立などに翻弄され続けている。こうした混沌とした時代にこそ、世界に感動を与え、欧米から尊敬されながらも、多くの現代日本人から忘れられてきた「日本的靈性」を、世界に誇れる社会・文化価値として再構築することが必要かつ急務である。

本フォーラムでは、多くの現代日本人から忘れられてきた「日本的靈性」に基づく「叡智」を再発見し、「自然」との共創を目指した対話を理論と実践の両面から試みることによって、日本的靈性や自然観を学術的かつ実践的に探究し、それらを踏まえ未来に向けた新たな社会・文化価値の創出を目指した。

具体的には、第一部において、宇宙物理学・素粒子物理学・人間学・未来創成学の異分野交流を推進することによって、歴史観・人間観・未来学の展望を広い視野から統括する NECTE 理論が提唱された。その理論は、単に世界の有り様を理解するための道具であるばかりでなく、世界を認識する心理現象の理解の道具としても優れていることが示された。さらに、この NECTE 理論は、その使用方法を逆転することによって、過去の理解に限らず、未来の創成にも使える可能性が指摘された。

第二部においては、科学・技術の創出が虚を作り続けていることが、山極壽一総長によって指摘され、それらの虚に対する私たち人類の実践的対処を確立する新たな統合学の創出の必要生が指摘された。教育についての議論も、現代社会と未来社会を見据える上で重要である点が、黒川清名誉教授によって提唱された。それに続く、パネル討論では、真空と超伝導、経済学の構築と破綻について、心の本質・日本的靈性を含めた観点から議論された。その結果、論理だけでなく、感覚や感情の本質的重要性、それに伴う芸術の価値などについても、議論が及んだ。

第三部では、都市化と都市への人口移住による、新たな現代的人類進化の観点が提示された。都市化は、これまで環境問題として取り上げられてきたが、環境破壊が人類の健康破壊につながり、寿命の短縮化など、二次的副作用が次々に露わになっている実態がトロント大学の Marc Johnson によって報告された。Stephen Hill, Daniel Niels による超学際議論によって、問題の共有と解決に向けた取り組みの可能性が指摘された。